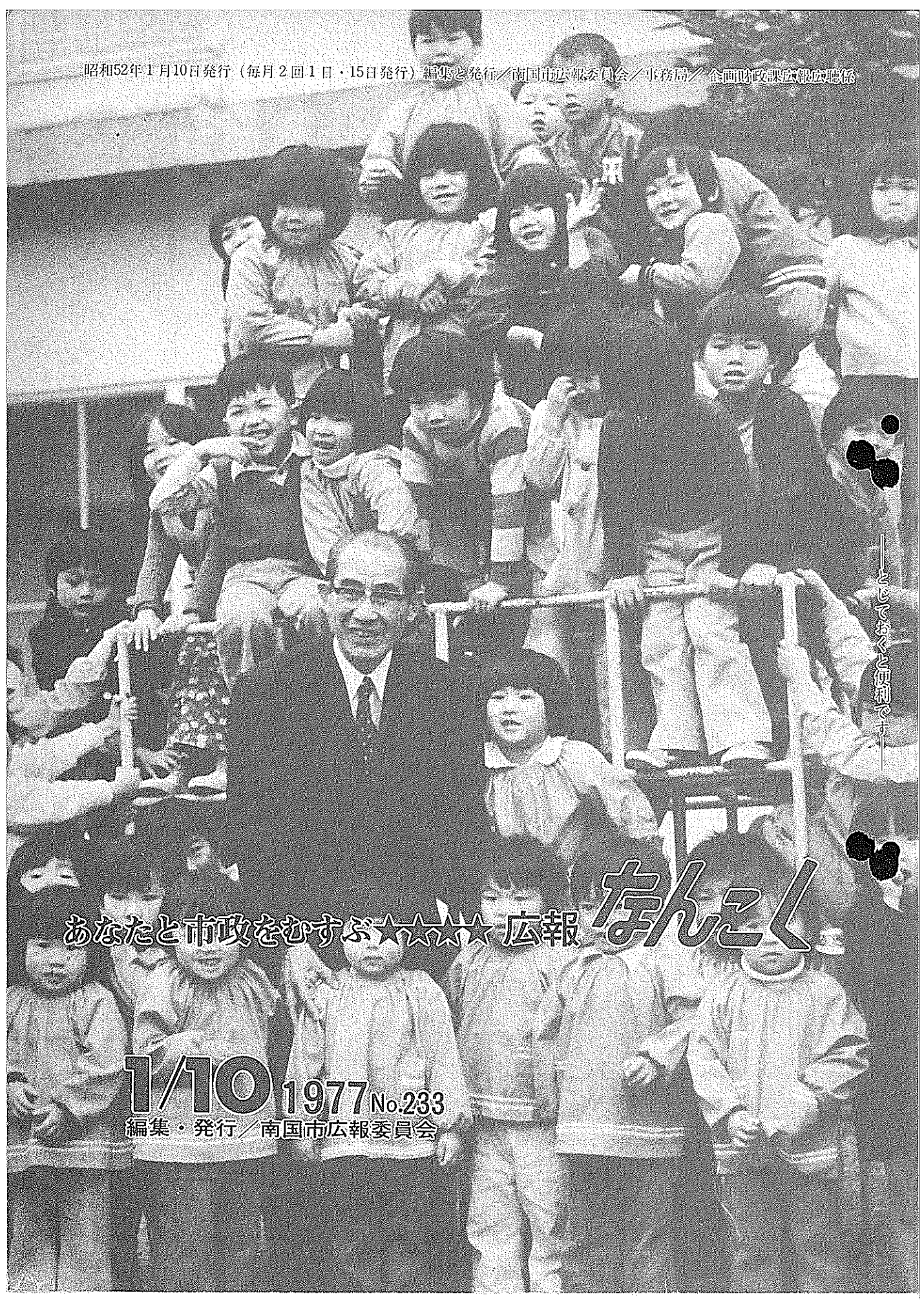


昭和52年1月10日発行（毎月2回1日・15日発行）編集・発行／南国市広報委員会／事務局／企画財政課広報広聴係



あなたと市政をむすぶ☆☆☆☆ 広報 **なんこし**

1/10 1977 No.233
編集・発行／南国市広報委員会

—なんこし—

市政発展は

財政の立て直しから

財政再建に

結集した協力

司会 ということは、景気よかつたそのままの姿勢で、無理をしてきたということが現状をか



市長 いや、まだ全然越していません。ことしにしてもゆるめることはできず、なお、一層

職者の不補充などは高知県にも例がなく、自治省でも全国的にあまり例がないといわれています。そのため職員の給与面や労働面にしわ寄せがいきまされたが、これでも十分だといはってこれませんが、しかし、市政の急激なUターンは避けるべきで、ある程度協調しながら健全な方向づけをしなければならぬと考えています。

議長 急激なUターンを避けなければならぬとする市長の基本姿勢で再建をしてゆくことは大切ですが、いま、市政をきめ細かく分析して、なぜこんなになるまで放って置いたのかと、危惧の念にかられています。

市長がいつていますように「底力のある市」でありながら、このような苦勞をしなければならぬということには、行政面での努力の欠如と、執行部と議会の関係があります。せめて二年早やかつたならばこれほどにはならなかつたかも……

もし出したということですね！議長 行政の多様化と肥大化によって、市の財政では適応できないほどに行政一般が肥大化し、経常収支比率が百分の百十を超すことになったのです。健全な財政に引き戻すためには、百分の百以下にならなければならないというこの一年間に職員はもとより、議会は与党、野党を問わずみなさんが一丸となって財政再建に向い、かつてみられないほどに結集して、緒についたことを市民のみなさんに知っていただきたい……



痛い開発公社の先行行政

議長 地方公共団体が企業のようなあり方であったという住民の見方の一つに、過去の高度成長の中で行なった先行行政の、安いつき買って、高いつきに売るといふ考え方があつたのでは、そういう考え方の行政には、悪い面が表われていますね。

市長 そうですそのとおりですね、先どり行政のあり方にもまずいものがあり、行政はたえず……

議長 企業的な売り買いの行政は、市の執行行政のほかに、財団と南国市の土地開発公社の二つがあり、そうした公社を利用して行つた市の先き喰い行政があり、当然、市が引き取らねばならぬものをそのまま置いてあるということも、市長が「登

将来の素案

内部で考える

市長 財政の再建と市政の将来ということは、他方本願的に上部機関の国とか県とかに直結するとかいふほかに、学者を雇つて写真真をつくるとか、財政再建には金融機関のベテランを入れるとか、という考え方がありましたが、その必要は無いという

市長・議長 新春を語る



五十二年の新春を迎えて、小笠原市長と橋本議長にことしに向けての夢の市政あれこれ語ってもらいました。

司会 おめでとうございます。市長、議長ともに一年ということですね。

市長 そうです。一年がまるんで少したつたところですが、議長はわたしより少し先輩になりました。

司会 それではことしの夢を語っていただくわけですが、まず、一年を振り返つてのお話からお願いしたいと思います……

市長 私は議会の方の援助や心配を受けるなど、過保護みたいな状態で議会側から受け入れられたので、そんなに苦勞したことはありません。それにお世辞ではありませんが助役や課長も非常によく、職員組合や同和問題



心配はなく、貴の花が土俵にあがつたときみたいにはらはらすることはないです。(笑い)議長 市長は過保護に育つたというが決してそうしたことではありません。行政上のベテランでも私も卓越した魅力の持ち主であ



先どりの行政と

肥大化行政に苦悩

市長が、そのような謙虚な気持ちで一年間を反省されていることは高く評価したいと思つています。市長 南国市の病根とか困難性はどこにあるかといふと、前市長、前々市長時代にもすでに研究されていたでしょうが、やや抜けているのは、いつの間にか市政の重荷になつてきた人件費とか厚生福祉行政、空港問題などを明確に指摘していないことです。また、同和行政についてはそれほど強調されていませんが、深く考えるべき点の一つであると思つています。

市政の重荷に

人件費と福祉費

議長 議会として一年を振り返つてみたとき、大変困難な年であつたといえます。高度成長から総需要抑制、低成長へとすすんできた中で、行政の先どりを連綿と続けてきたのがこれまでの南国市政の歩んできた道で、そうした中で議会として過去どうあつたかということ、議会人としてごんごんの致りに耐えないことがあります。

市長 これまでの過去の広報紙を見て感じたことは、財政問題で先輩市長の事業の先どりによる重荷とインフレによって軽減されることを期待したふしがあります。しかし、それにプラス人件費や福祉費が背負いきれない重荷になつてきたと考えます。福祉費を再検討するということは、私が就任後発表した姿勢と矛盾するように思われるかも知りませんが、常に弱いもの味方をする福祉行政に深い関心をもつてはそれほど強調されていませんが、深く考えるべき点の一つであると思つています。

議長 小笠原市長になつて市の財政を建て直さなければ、再建準備団体へ好むと好まざるにかかわらず転落するという事実、だれしも認めざるを得ない状態であり、再建という大役を背負つた市長はなみだりといふ苦勞でなかつたのでは……

考え方に立っています。市長 市政の将来の案は学者の力を借りない方針ですが、かならずしも外部の人のご意見を求めないということではなく、ただ、外部の人を雇うということ、返って運営がスマートにいかないこと、市の懐の中まで

空港 被害者の立場主張

司会 いま、空港の話がでましたが、財政問題などについてはこれくらいとし、空港についてお願いしたいと思えます。私の印象ではなにか明らかな感じがしたのではないかと感じます

市長 空港のことは議長ご本人からいいぬくいかと思えます。知事と市民連合との話し合いがもてるようになったのは、すべて議長のご尽力によるものです

市長 私は、就任する前から南国市民は被害者であるということをはっきりもっています。しかし、これ以上被害が大きくなるかどうかは別問題で土地を失うことがはたして大きな被害であるか、損害であるかは疑問があります。これまで、国の輸送機関が退歩

直接関係のない人(多くは学者か有識者)にまで明らかにしないことが、混乱をさけるためにより大切と考えてのことです。それに学者といわれる方々の姿勢と考え方によって問題が、逆に派生する懸念もあります。

いままでの市長と姿勢が違うというところで……司会 最近、また川の水が公害の問題があるようですが……

水の有効利用の方向で

市長 太陽と緑と水々と南国市をほめたたえたことばかりでなく、質もよいものでなければなりません。これも公害に関連してきますが、養まんな業が昨年の二倍位になる傾向です。この養まんなによる排水の悪影響を考へず、無制限に野放し状態にやらせることに問題があります。ところで養まんなによる水揚げ十二億円(南国市)は、水稲一回作の生産高に匹敵します。しかし、果は公害に対してなんの規制もせず、逆に奨励をしているため、市町村行政に大きな負担が掛かっています。もう一つは、南国市は水に恵まれています。水に弱い地区があり、水の対策が必要であると考へています。

また、水を適当に流すということばかりでなく、地下水をどうするかということも考へなければ、将来の水の足りなくなる不安があります。そのためには川

の全面的な三面舗装は避け、素掘りのこいやふなの棲める川を考へ、舗装するにしても側面舗装にとどめるとか、三面舗装でもところどころ石を敷きつめた川底にするなど、地下浸透のできるようにすべきで、また、川幅を拡げため池を作つて、降雨時の出水に対しての受皿を大きくすることも必要ではないかと考へます。

司会 ヘドロ対策にミミズを飼つて、土壌の改良にあてているという話もありますね……それは、同和問題でお気付きのことかあれば……

息の長い 同和行政で

同和行政で

議長 同和問題は、財政、空港とともに市政の三つの柱であるというところは、市長のいわれるところです。同和行政は、受ける立場と執行する立場が一体にならなければなりません。それが異なる場合問題点がでてきます。そのため同じ立場になって理解され、措置するということなければ発展はあり得ません。過去の同和

市長・議長 新春を語る



福祉三条例は復活

司会 昨年廃止された福祉三条例は復活ということですが、市長 議会にお願いして復活したいと考へています。福祉といえは積極的に聞かれますが、単に物質的でなくそのうえ精神的なものも考へるべきです。

議長 福祉三条例は四月一日効力が発生するように復活します。行政の手とどかない困った人

立地条件生かす

行政の創造に努力

司会 この辺で夢を語ってほしいと思えます。――図書館とか学校の建築は、議長 図書館は必要なものではないという夢は沢山もつていますが、やらなければならぬことが先に立ち――

市長 計画や順位を尊重しすめゆきませんが、受け入れ態勢とのつたところから優先します。大塚小学校は、地主の方から土地の提供の申し出があり、用地の話をすすめています。

たちに損得を考へず、常にお世話してくださっている人々を高く評価したいし、単に困った家庭に金を与えるよりも、心のささえになつてくれる人を大切にすべきです。困っている人たちも、物でなく、精神的な相談相手や心のよりどころをボランティアの人たちに求めているもので、世の中をよくするための行政指導と措置をなせざるにすることなく、明るい社会づくりに努めたいと考へています。

職員に感謝

市長 五十二年年度の課題はいろいろありますが、もちろん空港問題はその一つです。南国市の都市計画は不自然な状態であり、線引きの再検討が必要で、高知市などから土佐田、野市町へ人口が流出していますが、法規上きびしい制約のある南国市は避けられています。また合併前のそれぞれの中心であった集落地の都市計画についても考へたいものです。財政再建はもとより北部のみかん園、比江の運動公園などの処置など、堅実な南国市政の将来の発展につとめ、空と陸の高知県の玄関にふさわしい都市にしたいと思っています。最近、市の職員は官僚的でなく、



謙虚な心で市民に奉仕しており、公僕精神に徹しています。また、財政再建では一年間の昇給延期に協力するなど、真心のこもったことについては卒直に高く評価すべきです。

市長 感謝しなければならぬのは、舟入川の清掃や台風十七号における際の職員の活躍で、真実職員が使命感に生きていて、いうことを確信し、心強く感じました。

議長 夢がもてる新しい年を迎えるようにするのが行政の責任ですが、過去をういつた行政がなされてないことを反省し、夢が実現でき市民に希望と明るさがかかるような、市民相互の中で協力し合つてゆける市民づくり、市の盛勢づくりが一番大事だと思えます。

市長 同感です。南国市は基本的には日本的にも有数の恵まれた条件をもっているし、地理的にもいいところに位置していると思つています。そうした立地条件と人の和を生かした行政を創造し、よりよい市政発展の基礎を市民とともに築いてゆきたいと念願しています。

司会 それでは、この辺で……





知事・市民連合と話し合う

拡張反対での協議はしない

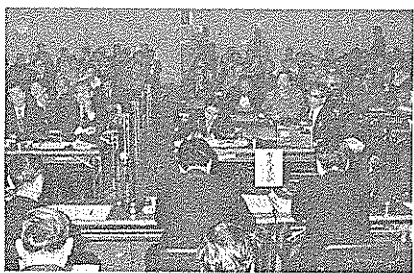
農業・騒音問題などはじっくり

空港拡張反対市民連合(倉沢実会長)と知事との第一回目の話し合いは、十月九日午後七時から市役所大会議室で開かれ、中内知事は、地元民の心配している農業や騒音問題などについては今後の話し合いを待つが、対立する基本姿勢の話し合いはしない、と表明しました。

知事 年内決着を望む

この夜は、県から中内知事、斎木副知事、大崎農林部長、戸梶企画部副部長、大原空港対策室長ら市民連合からは有沢会長ら約八十人が出席。あつせん役の小笠原市長、橋本議長の立ち合いのもとに行われ、拡張する、しないの基本姿勢の話し合いは、平行線をたどるばかりで時間の空費だ。反対という意味の話し合いでは打ち切りざるを得ない。という見切り発車を思わせる県の強い姿勢を示したものであります。

まず、あつせん役の橋本議長から簡単にあいさつしたのち、直ちに話し合いに入りましたが、この十四日に、知事と地権者の話し合いが、市長、議長があつせんによつてもたれることから、「われわれと話し合っているうちに、用地買収業務に入りぬという約束を破るものだ、信義を重んじてもらわなければ話し合いに入らぬ」と強い抗議が出され、それに対して橋本議長は、「信義は破っていない。市民連合も地権者も同じ市民であり、その地権者からの要望にこたえ、不安を取り除いてやることも大事なことだ、背信行為にはならない」とこたえ、一時紛糾。「地権者との話し合いは再考せよ」ということで、一応ケリ。



再考せよ」ということで、一応ケリ。知事は市民連合との話し合いはいつまでもつづけるつもりはないと、朝日新聞に発表しているが、という質問に対して、中内知事は、「地権者には納得をお願いしなければならぬが、絶対反対の市民連合には理解を深めてほしい」と願っている。県の立場は理解してもらったうえで話し合いをすすめてもらってほしいつもりだ。双方に開きがあることはお互い承知のはず。話しがつかなくても長引かせてゆく考えはない」と答弁。

た「空港拡張の基本姿勢について話し合いはしない、できれば年内に決着をつけたい。拡張に伴って地元が迷惑する騒音や農業の問題、環境の整備などどのような対応するか、といった内容のある話し合いなら来年になってもよいし、時間をかけ何回でも精力的に話し合う」と述べ、基本姿勢については市民連合との話し合いに、年内決着の意向を示しました。短滑走路で離着陸できる航空機(VTOL・STOL)の開発が進んでいる。また、千五百メートルのみぞ切り方式などの開発も行われているのに、なぜ拡張を急ぐのかと追及。中内知事は「国の予算はいつもつくものではない。県民や国民の需要を満たすため拡張が必要。拡張しなくても指摘される航空機がすぐ実用化できるならそれにこしたことはない。国だつてそれなら拡張に投資する必要はない。急ぎもしないものを急いでやっているのではない。また、STOLは、短距離で大重量運送はできない。VTOLは垂直上昇機で軍用に使用されているが、民間で使用されていない。改造にも十年はかかる」と大原室長が新機種の現況を説明。このほか、騒音の問題が取り上げられ、教育施設への影響、防音対策などについて、「空港整備が

できるということになれば、防音対策は特定空港に指定してもらい先取りで実施する。騒音は完全にしゃ断できないがどだけ軽減できるかだ」と述べた。騒音対策は公害がなくしてはいけないので、公害があると考えている。十一月六日の一回の会合で宿題となつてきた再度のテスト飛行については、「再度のテスト飛行は運輸省とも話しをしていくが、滑走路も老朽化し、安全性の点に問題があり現状のままでは困難である。実用化されている松山空港に近いので、一緒に行き時間をかけて実態調査をしたい」と、テスト飛行に難色のあることを表明。話し合い冒頭の「年内決着あり得る」の知事の強い意思表示に、かなりエキサイトした状態で行われ、最後に有沢会長らは「早明浦ダムにしろ、いろいろな開発の犠牲は常に住民がかぶらねばならない。飛行場にしろいつ事故が起るとも限らないが、行政は一体、どう責任をとるのか、われわれは住民拒否権というか、その権利を確保する」と述べ、次回の会合をいつ開くかも決まらぬまま、午後十時五十分話し合いを終りました。

来年度は用地買収

地策 大規模 土地改良事業

五十五年度完成メドに

この日、集った地権者は、田村地区を除く下田村、物部、久枝など約八十人で、県側は、中内知事、斎木副知事など関係部課長、それに明神県土地開発公社理事長らの首脳陣が出席。まず、小笠原市長、中内知事のあいさつがあり、質疑応答に入りました。

の時期はいつか、とただされ、中内知事は「本当にやらしてもらわないといかんし、本当にやる。当初五十三年度供用の予定が遅れている。来年度は用地買収をし、できれば五十五年度に仕上げたいと思っており、皆さんの協力を得て進めたい」と答えました。また、周辺農業の振興には基礎整備が必要だが、どう取り組むか、との問いに対し、中内知事と大崎農林部長は、「失ったもの以上の生産をあげ、生活の向上

知事・地権者との対話

小笠原市長、橋本議長あつせんの知事と地権者との初会合は、十四日午後一時、前浜公民館で行われ、中内知事は来年度用地買収に入り、できれば五十五年度に仕上げたいと協力を要請、農業や道路、水路など周辺地域の開発、騒音など地元対策について、県側の考えを明らかにしました。

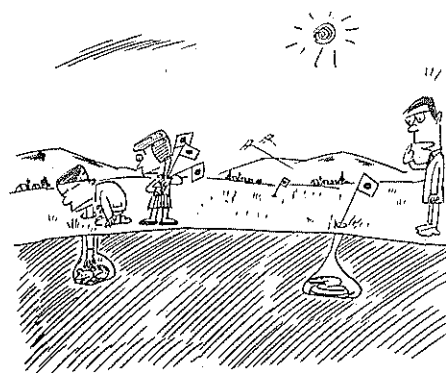
このほか、周辺道路、水路、河川改修や騒音対策について、県側は、「県道前浜・土佐山田線は五百八十メートルの地下道とし、照明、排水、換気設備の完備したもので、取り付け道を含め延長九百三十メートルとなる。空港本体の周囲に二車線、七車線の県道並みの農道と水路をつける。空港北側の排水問題には浸水を起こさないよう十分対処する。後川の抜本改修は、将来一本の放水路で放水できるように計画しており、防潮水門や操作室を設けるなど積極的に取り組んでゆく、騒音問題については、海側離着陸による優先滑走路方式の採用など発生源対策をとり、航空機騒音防止法に基づき高知空港を指定してもらい、民家や公共施設などの防音工事を進めるなど、従来以上に真剣に対処してゆく。ジェ

ット機になれば、現在の利用者の予測では、昭和六十年度の段階で二十一二十五便となる見込み、空港の使用時間は午前七時半から午後八時半まで、県道春野一赤岡線は改良ルートに三つの計画ルートがあり、これがルート決定によつて早期に着工する。防潮堤の北側の道路新設は、黒潮ラインのルートとならない場合は、管理道路の使用について相談してみたい。など、拡張に伴う地元周辺地域開発については、かなり具体的な計画が示されました。そして、地域の振興計画については、開発基本構想へ加味してゆくので、お互いが十分意見を出し合い話し合つてゆきたい。養まんについても共同出荷場や競合しないような団地化など考えてゆくなど、こんなことも誠意をもって話し合いをする姿勢を示しました。こうして地権者と県側の会合は混乱もなく午後四時過ぎに終わりました。

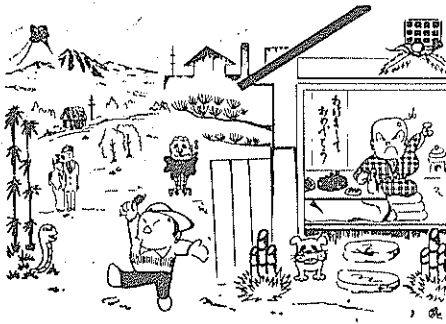
先の市民連合との話し合いや、今回の地権者との会合によつて、空港拡張問題は早期決着を望む県の姿勢表明に加えて、あわただしい動きをみせてきたといえます。



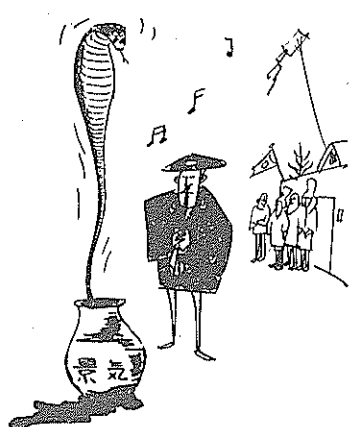
かるた会「ハイありました」
葛目義人 (岡豊)



こいつはちがう
古谷栄幸 (植田)

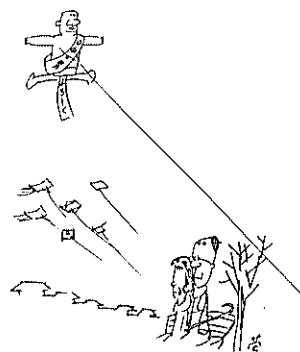


あけましておめでとう
岡上正義 (片山)



新春 マゴ大会

今年は春から景気がカマ首を
持ち上げるか……
岩本タケオ (金地)



「次は参議選ですか」
沢本英世 (里改田)



おめでとう77年
島崎正博 (大浦)



お年玉クイズ特集
ご家庭で話し合ってお答えしてくだ
さい。答えは今月号の広報に出て
います。

- もんだい
8月26日、市職員約〇〇〇人が
出勤して舟入川などのゴミ掃討作
戦を展開、地元住民の協力もあり
川はみちがえるほどきれいになり
ました。に
- しめきり・1月22日(土)
- おくり先・783 南国市大浦
南国市役所内 広報委員会 親子
クイズ係
- 笑えのハガキには必ずお歳・職
業を書いてください。
- しょうひん・特賞 1,000円=10
人 残念賞(記念品)=10人

- 第63回正解者発表
- こたえ・投票日は12月5日です
た。
 - 特賞・1,000円=3人
堀内正子さん(千屋崎)
山崎順章くん(西野々)
窪添正隆くん(滝本)
 - 残念賞・記念品=10人
田岡政昭(植野) 大野木稔(廿枝)
山本みさお(前浜) 村上静(小蓮)
岡崎光子(定林寺) 森田鹿(後免
中町) 下司記子(久枝) 島田徳
江(田村) 下元康江(稲生) 池田
誠心(立田)
- おめでとうございました。

モニターの便り もじ活用しようゴミ袋

高知市内を車で走っておりま
す。と街のどこどこに汚ないゴミ
の山をみかけてとても不快な気持
になります。その点我が南国市
は前市長の杉本さんが無料でゴミ
袋を配布してくださって、「ゴミは
袋に入れて出す」という習慣を私
たちは身につけてきましたので、決ま
った袋に入れて決まった場所に出す
ために清潔で、高知市とは比べも
のになりません。本当に素晴らしい
ことです。



その後、財政の都合で十円にな
りましたが十円でも安いものです。
折角買った袋は大いに活用してゴ
ミを道端や川に捨てずに、全部袋
に取って自分たちのまわりは自分
たちの手でいつも美しく美しい環

境作りをしましょう。

それからもう一つ大切なことを
忘れずに、集めてくださる方へ感
謝の心をこめて、荷作りはきちん
と袋の口がほどけないように注意
したいものです。
「ゴミ袋のおかげで、川も道も
みちがえるようにきれいになった」
といわれるような南国市にみんな
でしていきましょう。

南国俳壇

- 唐黍を漁網につるし蚕の家
出水橋の蔡列濁り川に添ふ
廢鹽田鶏翔たねば汝も枯るる
刃のような視線を背に枯はじまる
冬鳥の猛りて朝が狂いだす
検診日初冬の雲がレモン色
美しく咲き野牡丹の散りやすく
時化空に揺れる唐黍もぎにけり
一葉も残さず木守柿のみに
- 北村 菊女 (灯俳句会)
井上 三里 ()
浜田とし子 ()
馬場 左枝 (若草句会)
和泉えい子 ()
小松 ふみ ()
溝淵なおい (柿の実会)
西川とみ子 ()
公文 茅恵 ()

南国歌壇

- 夫と息の年忌の帳簿めぐりつつ
あと幾ばくの我が生想う
過ぎてゆく女わが身か夜の明けて
木の葉の上に光が動く
旅立つ日土産買ふよとふり返り
孫九州へにこやかに発つ
- 植田 永野美由
大浦 上東奈智子
里改田 楠瀬米井
- あかあかと炭火は燃る厨辺に
冷雨の今日を御愁おほゆ
亀岩 島本栄
- 眉くろく刺りちも背きクランケの
背にうぞふるふ 倶梨伽羅紋
(市民病院で)
久礼田 旺齋薫

広報委員の目



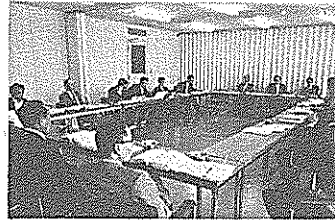
広報と私

十年ひと昔という言葉がある。
私が長岡村、後免町、南国市の広
報マンとして歩いてきた道のりは
そろそろ三十年になろうとしてい
る。また、日章村当時から広報
マン藤本茂樹君も同年月がらばっ
ている。
南国市広報委員会は、県下にお
いても数少ない組織であり、近年
は、全国的にその構成が目まされ
ている。というのは、住民の各層
から委員が選ばれ、住民と市政の
パイプ役としての姿勢を明確に示
し、その使命を果たすことに努力
している点にあると思う。
私は長年、その委員会の代表で
あり、また日本広報協会高知県支
部長としての重責と、自身の練磨
に努めている積りである。私は広
報マンとして、いま住民は何を望
んでいるのか、自分は何をなすべ

きかということを考えるように努
めてきた。それがきっかけとなり
誕生したのが、献血運動や土曜市
であり、また希望の家の誘致とな
り、老人ホーム清風園の設置とも
なった。誰かが、お前は医者だぞ
とささやいてくれる、しばらくし
て解ったわかったとうなずいてい
る自分の姿をあらためて見直すの
である。某議員さんは、私のこと
を大久保彦左と呼んでくれる。市
長をはじめ、議員と何でも話し合
えるそんな人がいてもよいと思っ
ている。「私が何やかやと走りま
わってお節介やきをやめたらと」
私もそうしたいと思うこともある。
そうしたら、もつともつとお金も
うけができるかもしれない。
しかし、南国市生まれの中に一
人くらい変り者がいてもよいでは
ないかと自分に言い聞かせながら
幾多の公職に追われて走り廻って
いるのが私の日課でもある。これ
も長い間、広報マンとして培われ
てきた宿命であるかもしれない。
思えば、今年がヘビ年である。
「めくらヘビにおびず」のたぐい
かもしれないが、まばたきもしな
いあのヘビのつら構えに負けな
いように、私もラストヘビをかけて
がんばって行きたいと願っている
ものである。

山本尚一

2月



再建計画案が諮問される

財政再建審議会は、2月25日、小笠原市長から、年間1億円の赤字解消をまとめた「財政再建計画案」について諮問を受けた。

諮問された計画案は「自主再建のため税率の引き上げ・人件費、職員の削減などで50年度に比べ約4億4,000万円を減額する」というもの。これを受けた同審議会では、再建案を具体的に検討することを決め、積極的な再建案を答申することになった。

2月

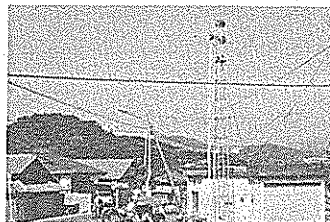
西見当遺跡の発掘調査

田村の西見当で発見された弥生時代前期（約2,200年前）の住居跡「西見当遺跡」。

2月18日から1週間にわたり、高知女子大の岡本健児教授らによって発掘調査が行われた。炊事場や作業場、貯蔵庫と思われるところから、石斧（ふ）、ツボ、浅パチなどが多数発見され、古代の稲作を探る貴重な資料となった。



2月



無線遠隔サイレン

消防本部のボタン1つで久礼田、稲生など、市内6カ所の消防屯所のサイレンが鳴り、スピーカーに切り替えると放送ができる——

無線遠隔サイレン・放送制御装置が—昨年の12月から市消防本部でスタートしている。消防本部では、この装置をつかって火災の発生、鎮火はもちろん12時を知らすサイレン、火災の発生と場所、応援出動の要請、鎮火のお知らせ放送などにフル活用している。

二の一年

51年のできごと

『まず手がけなければならないのは財政の立て直しだ』

小笠原市政が誕生して2年目を向えた。

昭和51年——文字どおり財政再建にはじまり、財政再建に終わったこの1年。財政問題に、空港問題にと南国市政は揺れ動いた。いま、市民・議会・市、三者一体となって自主再建への道を歩みはじめている。

52年——さわやかな町づくりを進めていくために、この1年を市民とともに振り返り明日への糧（かて）にしていきたいものだ。



4月

吾岡保育所が開園



人口急増などで毎年入所難にあっている大篠地区に「救世主」。

4月8日、私立吾岡保育所が開園した。これは、大畑福祉協会（佐竹弘光理事長）によって昨年10月から建設されていたもの。鉄筋2階建て、延べ637.19平方メートル、総事業費約7,700万円、120人収容できる。

これで市内の民間保育所は2カ所となり、公立15を合すると17保育所となりました。

4月



欠員の不補充・昇給延伸

「南国市は今、財政再建という大きな問題をかかえている。私たちも一市民として努力していきたい」——4月5日、沢村泰誠さんから17名の永年勤続の退職者に感謝状が贈られた。

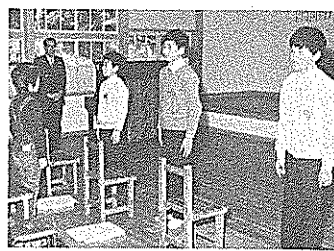
なお、財政再建のための欠員の不補充、昇給延伸などのしわ寄せに職員も協力しました。

3月

黒滝小在校生1人となる

3月24日——まだ春寒い黒滝小学校の卒業式だ。

一時は中学校もあり100人を超える児童生徒がいたが、年ごとに子供数が減少、現在は在校生が4人。この日、西村くん、中山くん、谷口くんの三人組が卒業していった。1人残る在校生、吉村くんは「長い間ありがとう。これからはお兄ちゃんたちに負けないようにガンバります」と三人を送った。



1月



物産展大当り

埋もれがちな郷土の物産を掘り起こし、大いに売りこんで不況を吹きとばそう——。1月29日から高知大丸で「香南市町村の観光と物産展」が開かれた。

出品されたたくさんの郷土色豊かな特産品は、値段が安いうえ製造実演もあり、売れゆきも好調。はじめてのこの物産展は大当り。

1月

教育長に門田前助役

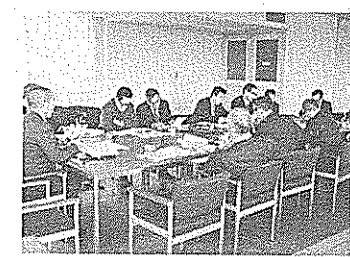
また、1月臨時市議会で門田真一前助役（54歳・高知市）の教育委員選任同意議案が可決され、教育委員会は同氏を教育長に互選した。

これは、岡林孝夫教育長ら3委員の任期が満了したことによるもので、教育長のほか教育委員として、藤本茂樹氏（55歳・田村）を再任、福岡弘幸氏（60歳・東崎）を新任した。



門田真一教育長

1月



再建審議会スタート

市の台所は49年度で3億4,000万円、50年度でも約6億円の赤字が見込まれるなど破産の状態だ。

このため、1月臨時市議会において財政再建審議会（松木二郎会長）が設置された。市議会議員15人で構成された同審議会、「赤字の原因を解明し、基本的な財政再建計画について市長の諮問に応じて調査、建議すること」を目的に、自主再建に向ってスタートした。

7月

ポリ袋に切り替える

7月1日から、ゴミ袋が今まで使っていた紙袋からポリ袋に切り替えられた。

今までの紙袋は1枚26円、このうち10円を市民が負担、残り16円市が負担していた。しかし、市財政の悪化にともないこれまでの市費負担も困難ということから、経費のかからないポリ袋を使用することになったもの。市民負担は今までどうり10円、これで1,600万円の経費節減となる。



6月

行き詰まる協業みかん園

北部の協業みかん園（奈路、大平、八京）の経営が行き詰まり、窮状打開に頭をいためている。

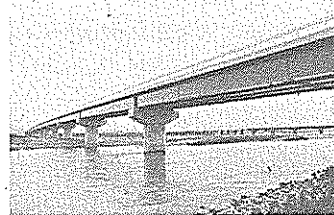
対策委員会を設け検討しているものの、いまのところこれといった再建策はない。現在、三園のうち二園はすでに耕作を放棄、残りの一園も放棄寸前にあっても売却したい意志を表明している。

6月

物部川大橋が落成

河口をひとまたぎし、南国市と香美郡吉川村を結ぶ物部川大橋が完成し、6月12日、南国市の竹村清さん（田村）と吉川村の高瀬利行さん両家の親子3代夫婦を先頭に関係者らが渡り初めをして完成を祝った。

老朽化した下ノ橋の付け替えとするもので、ブルーで仕上げられた近代的な橋。黒潮観光ラインの新名所となりそうである。



5月



再建計画中間答申

5月4日、松木会長から小笠原市長に中間答申書が手渡された。市長から諮問された財政再建計画を審議していた財政再建審議会は、12日の会合と2回の意見聴取のうえ、市税の増収・人件費の削減など歳入の増強、歳出抑制により年間1億円の赤字解消をはかる、そのための高負担や福祉後退など一時的に余儀なくされる行政水準の低下は止む得ないとした、中間答申をまとめ市長に手渡した。

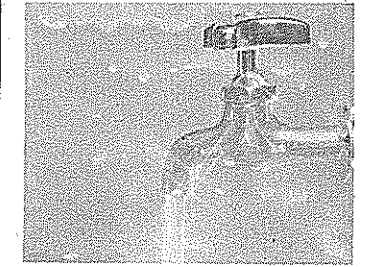
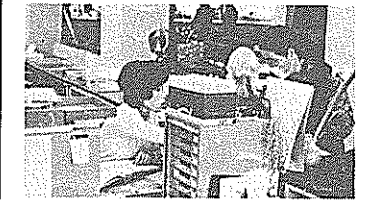
4月

市民税を引き上げ

4月臨時市議会は19日に開かれ市民税などが引き上げられることになった。

これは、先の国会での地方税法の改正と、財政再建計画での増収によるもの。超過税率から標準税率へ引き下げられていた市民税も市の財政悪化にともない再び引き上げられることになった。

このほか、軽自動車税、個人・法人市民税の均等割などが引き上げられ、税制改正と財政再建による増収は、1億200万円。



4月

水道料金を引き上げ

水道料金が4月から137%引き上げられた。

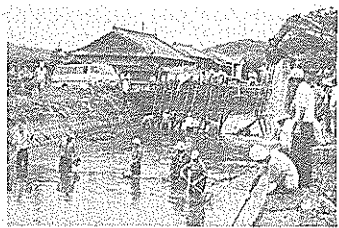
これは、市の水道料金が昭和42年以来、9年間据えられていたことによるもの。1立方メートル（1ト）の水の原価は55円90銭しているにもかかわらず31円30銭で供給してきた。物価の高騰などのため水道会計は苦しくなる一方、そこでやむをえず値上げされた。なお、一般家庭用は75%のアップ。

8月

職員200人で大清掃

8月26日、市職員約200人が出勤して舟入川などのゴミ掃討作戦を展開し、多大の戦果をあげた。

「舟入川をゴミ入れ川にしないよう、上流でゴミを投げ捨てぬよう強力な対策を——」と、高知市民から越境陳情を受けているところから、市民モラルの啓発運動の活発化、現況のゴミ掃討の二面作戦で実施。当日は地元住民の協力もあり、川はみちがえるほどきれいになった。この日の戦果は約100ト。



8月

アマチュア無線で救助活動

市役所にアマチュア無線クラブが誕生、非常時には市役所内にアマチュア無線局を開局することになった。

昨年の5号台風では、アマチュア無線による災害救助活動がなされたのは記憶に新しいところ。

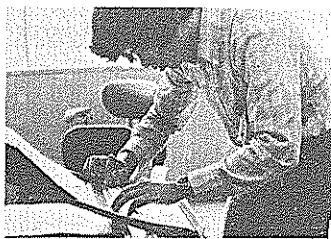
現在、市内には約250人のアマチュア無線家があり、災害時や緊急の場合に協力を依頼し、スムーズな救助活動を行っていく。

7月

皇太子ご夫妻来高される

皇太子ご夫妻が、7月24日午後、高知空港着の全日空臨時便で来高された。

27日から2日間、土佐清水市で開かれる第18回自然公園大会にご臨席されるため、ご夫妻おそろいのご来県は今回が初めて。空港をはじめ、沿道に埋めた県民の歓迎にこやかにこたえられながら高知市へ向かわれた。



6月

閲覧者は赤いリボン

戸籍や住民基本台帳を閲覧する市民の方には、胸に赤いリボンをつけてもらうことになった。

これは、閲覧する人や団体が年ごとに増えてきたところから、混雑をさけたり、閲覧者であることの表示をお願いするもの。

また、個人のプライバシーを守るため、昨年4月から戸籍の公開制限を行っているところから、閲覧を希望する人は係まで申し出てほしいと呼びかけている。

5月

青年団が演芸大会

新しい青年団員と親睦を深めよう——5月30日、中央公民館で市連合青年団（土居順一団長）は第1回演芸大会を開いた。

市内の9団体の青年団が、ミニミュージカルや舞踊、演劇、歌謡などの出しもので技を競い、約70名の団員が参加し、新しい団員と先輩団員とのなごやかな集いと熱演が4時間も続いた。



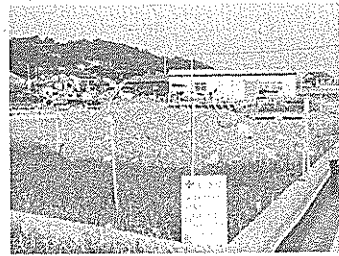
5月



当初予算決まる

5月臨時市議会は5月18日から開かれ、51年度の当初予算が修正可決された。

例年なら当初予算は3月議会で決まるもの。しかし、今年は財政再建という、重大な責務を負っているところから、4・5月の暫定予算という市発足以来初めてのものとなっていた。総予算額は48億1000万円で、今年1億円の赤字を解消する。また、交通遺児手当、母子福祉手当、老人年金の福祉3条例が廃止されることになった。



11月

高見団地の建設決まる

11月18日に開かれた臨時市議会において、継続審査となっていた公営住宅高見団地の建設が決まった。

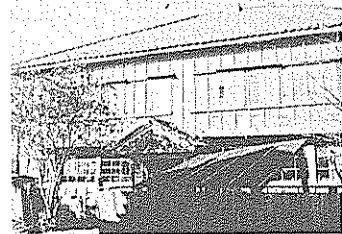
当初、舟入団地として計画されていたが市の都合により契約を解約、新たに計画したが賠償問題などのため継続審査となっていたもの。高見団地は、鉄筋ブロック2階建て16戸、総事業費5,900万円。完成は52年3月の予定。

11月

支所廃止で市政報告会

「関係住民と精力的に接することにより、地域の実状を知ろう」11月18、19、24日の3日間、それぞれ前浜、稲生、三和地区で市政報告会が開かれた。

この市政報告会では、財政再建のための支所廃止の問題と、当面する市政の概要説明が中心で、支所の問題については賛成、反対の活発な意見交換がされた。



11月

空港拡張で話し合い



空港拡張問題でなんらかの伸展をのぞむ県と、空港拡張反対市民連合との話し合いが、11月6日、日章公民館で開かれた。

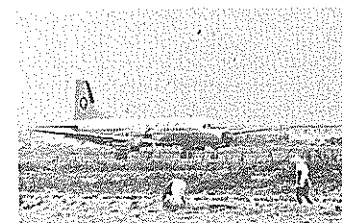
会には、県側から中内知事をはじめ関係者ら、市民連合からは有沢会長のほか市民200人余りが出席。約4時間にわたり、基本姿勢と農地・騒音問題を中心に話し合いが進められたが、両者の主張は対立、次回の会合で詰めていくことになった。

12月

空港拡張問題に動き

「農業や騒音問題などについての話し合いは今後も続けるが、対立する基本姿勢についての話し合いはしない」——空港拡張反対市民連合と知事との2回目の話し合いが、12月9日、市役所大会議室で関係者約100人が出席して開かれた。

また、14日には知事と地権者との初会合が開かれ、周辺地域の開発、騒音などについて話し合われるなど、空港問題にあわただしい動きをみせてきた。



12月

大湊小プール落成

夏には新プールで心ゆくまで水泳ができる——待ちこがれていた大湊小学校のプールが完成、12月11日に落成式が行われた。

総事業費は1,872万円。鉄筋コンクリート、たて25mよこ12m(7コース)。大湊小には、南部小と前浜小が合併した42年からプールがなく、夏には合併前のプールを借りていたもの。

11月

ありがとう大工さん

11月28日、日章小学校に関係のある大工さんら約20人が、校舎修繕の無料奉仕をした。

作業をした大工、左官、ブリキ屋、ペンキ屋さんらはみな「とうりょう、級の腕前を持つ人たちが、動かない窓、破れた板、きずだらけのテーブルなどが見ちがえるほど良くなりました。しかも、材料を自分で持ってきたの奉仕作業、学校をはじめ、子供たちも大喜び。

9月

交通会館が落成

自動車運転免許証の更新時講習を南国で——ドライバーみんなの願いであった「南国交通会館」が、9月18日、大湊の南国警察署構内に完成した。

これは、交通安全協会南国支部(立田辰巳支部長)が、今年4月から工費約1,500万円で建設していたもの。今後は、管内の事故一掃のため、広く活用されることになった。



9月

死亡事故で緊急事態宣言

9月21日、南国署は「交通死亡事故抑止緊急事態宣言」を発した。

管内の交通事故は件数、負傷者とも昨年よりも減る傾向にあるものの、死亡事故はすでに昨年を3人もオーバーした。「今後は一人の死亡事故も起こさないように」との願いをこめて、徹底した安全運動を進めていくことになった。



9月

台風17号が襲来

のろのろ台風17号は一昼夜停滞するなどのめずらしいわざを披露、集中豪雨によって市内各地に大きな被害をもたらした。

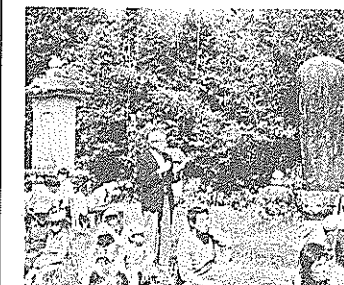
稲生では承水溝が決壊、奈路杖谷や才谷の青谷ではき裂、地すべりの危険性があるため関係地区に避難勧告が出された。このほか、稲生、片山、後免など舟入川から下田川添いに家屋の浸水が相次いだ。対策本部によると、行方不明1、半壊4、床上浸水91、床下浸水465、被害総額10億8270万円。

10月

史跡めぐりハイキング

体育の日の10月10日、久礼田体育会(北村福德会長)の主催による第1回史跡めぐりハイキングが行われた。

歩くことの少ない現代人にとって人気は——の心配をよそに約80人の親子ずれなどが参加。秋風がこころよく感じられ、快適なハイキングとなった。



10月

ハウス養まん急増

ハウス園芸からハウスウナギへ——ハウス養まんが盛んになっている。

温暖な気候など立地条件に恵まれており収益率が高いことなどから、十市、三和、前浜、日章などを中心に急増。

しかし、排水処理などに伴う公害問題が起きており、今後は団地化・協業化の方向が望まれている。

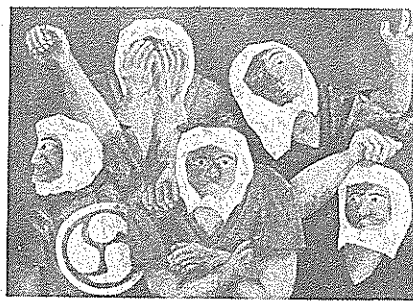
9月

老人クラブで河川清掃

私たちの川は私たちの手できれいにしよう——環境衛生週間の9月25日、上大湊の老人クラブ千寿会が新川の清掃をした。

新川は後免の町中にある川、これが汚れてはみともないという声がおこり、清掃にふみきったもの。70~90歳までのお年寄り80人が、くわやかまを手に清掃に汗を流し、意気盛んなところをみせた。

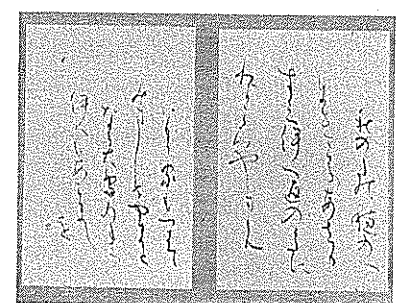
上位作品には 制作意図が明確に



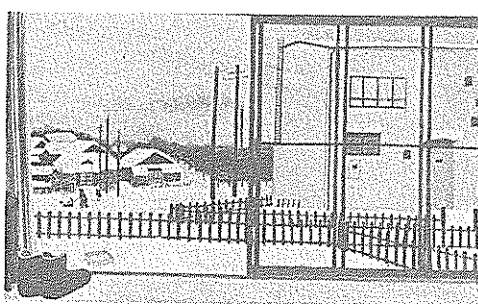
十一月二十八日から二十五日までの八日間、市民体育館で開かれていた第十六回南国市美術展は約八千人あまりの市民を集め幕を閉じました。

搬入作品は一般、児童の部を合わせて一万九百二十七点の作品が集り、この中から二千八百二点が選ばれ展示されました。

一般の部の審査では、筒井真道(洋画)、田岡耕作(日本画)、森光喜(彫塑・工芸)、平山昌幸(漫画)、福原云外(書道)、大野敦英、高芝晴喜(写真)の各部門の審査員により行われ、特選七点、褒状十六点の他に、今回から新設された奨励賞五点も選ばれました。また、入選は百九十九点でした。



出品点数が例年よりかなり減っていることは残念である。が、新人の進出もあって、出品作そのものは質的に落ちたとは言えない。今後、出品者の層を厚くするよう努めてゆけば、その充実度は期待できよう。なお、作品の傾向としては、いわゆる今目的な新しい形式を追うようなことは好ましくな



第九点でした。

◆洋画◆
特選 池知隆(篠原) 『仲間たち』
褒状 高野祥子(大浦) 『手結港』 吉川秀子(三富) 『人物』
無鑑査 武内光仁(高知市) 山崎次(大浦) 細川義彰(上野田) 島村義一(片山) 田島啓巳(大浦) 橋詰正利(植田)



◆日本画◆
特選 野口須磨子(下野田) 『土崎港(秋田)の昼さがり』
褒状 柴田香(後免町) 『グリヤ』
奨励賞 田島あつみ(大浦) 『晩秋の焼岳』
無鑑査 伊尾木正太郎(東崎) 橋詰正利(植田)

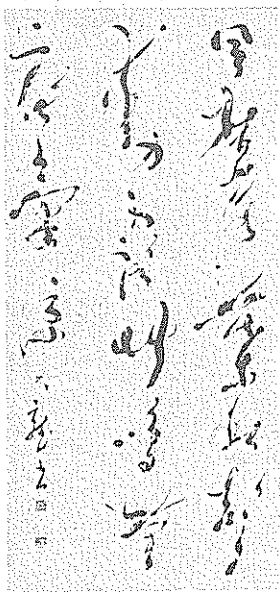
出品点数の半減が何によるかはわからないが、これまでにない低調さは、まことにさびしい。作品

いが、大たんに実験的な表現を意図するものが、あつてもよいと思

にしても大作の何点かがあつてほしいものである。

◆彫塑・工芸◆
特選 関敏夫(高知市) 『浮き彫り文様四方花器』
褒状 橋詰正利(植田) 『家族(鉄)』 葛目仁子(岡豊町) 『ブラウス』 東千葉高計(測科一年生共同作品) 『77カレンダー』

第16回南国市美術展



あつて厳しく苦しく、お互い物を作る人々の宿命であることを銘記せねばなりません。

◆漫画◆
褒状 葛目義人(岡豊町) 『模範議員候補者』
奨励賞 島崎正博(大浦) 『プロンティ』
無鑑査 沢本英世(里改田) 『ノー政の作付転換』 『黒き一雲』

ロッキード問題を中心にして、国の内外とも多事な今年も容れようとしている。しかも、十一月五日の注目の総選挙を前にして、今年も相変わらず出品者は少いが政治を皮肉った作品が目についた。



威佳志(大浦) 『白鷺(圓)』
褒状 竹内律(里改田) 『信仰への道』 岡本守正(大浦) 『秋』 松村克己(小籠) 『忍』 友永喬(稲生) 『ひとりぼっち』

◆書道◆
特選 門脇勲(土佐山田町) 『万葉秀歌』 坂本大龍(高知市) 『風林落葉』
褒状 小川咲華(上野田) 『万葉歌一首』 西村薫花(小籠) 『兼愛』 茨木方尾(高知市) 『百人一首』 松岡冬紅(東崎) 『翠竹』 矢野天道(篠原) 『寿山』
奨励賞 毛利悠映(大浦) 『あそぶ』
無鑑査 川内悠溪(大浦) 弘末咲翠(里改田)

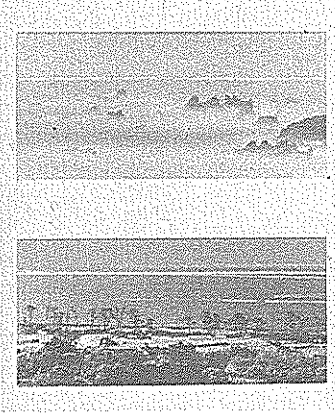
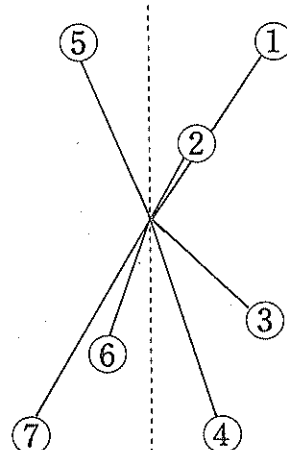
書道の部は作品が増加しているだけあつて水準が高い。地方展ではおそらく最高の部であろう。指導者の関係もあり作品傾向が狭いのは止むを得ないことであろうが、将来に向けて個性的表現を期待したい。現代の書は単に筆技の巧拙だけでなく、内面の訴えが要求されることを認識されたい。しかし今回はつとめて広い視野に立った審査を心がけたつもりである。

◆写真◆
特選 筒井真道(大浦) 『航跡』 藤田

作品紹介

右ページより、①洋画 『仲間たち』 池知隆(篠原) ②書道 『万葉秀歌』 (作品の一部) 門脇勲(土佐山田町) ③日本画 『土崎港(秋田)の昼さがり』 (下野田) ④彫塑・工芸 『浮き彫り文様四方花器』

関敏夫(高知市)、左ページへ移つて、⑤書道 『風林落葉』 坂本大龍(高知市) ⑥写真 『白鷺(圓)』 藤田威佳志(大浦) ⑦写真 『航跡』 (カラー) 筒井真道(大浦)





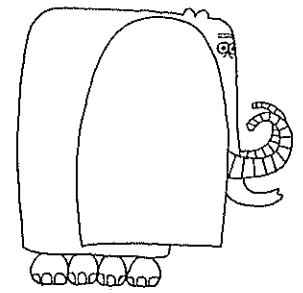
身体障害児(者)

福祉展へ出品、見学を

第七回目をむかえる高知県身体障害児(者)福祉展が、今年も二月二十四日から二十六日までの三日間、高知大丸別館催し場で開催されます。

これは、身体障害児(者)の更生支援の実態を資料により公開し、広く市民の理解と関心を高めるとともに、身体障害者の製作品を展示即売して身体障害者の自立更生の意欲を高揚し、身体障害者福祉の推進を図ることを目的としています。

市民のみならずの出品、見学をお待ちしています。



福祉事務所社会係

1月15日は「成人の日」です。この日は、大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を祝い励ます国民の祝日です。

民法第3条は「満二十年ヲ以テ成年トス」と定めてあり、法律上独自の社会人としての地位を獲得します。成人となられた方々は、まず国民としてもっとも重要な選挙権が与えられ、国政や都道府県、市町村の政治に参加するチャンスが得られます。

一方、財産関係や身分関係などこれまで未成年者の時のような法律上の保護は、成年者には取り去られ、自分の責任と判断で行動することを要求されるわけです。「ご成人おめでとう。」この成人の日からあなたは大人です。しっかりと成人の自覚をお持ち下さい。

増改築資金の

継続受付け

昭和五十一年度第二増改築資金の申込み受付けについては、三万戸の枠で十一月十五日から十二月二日までの間を予定していましたが、昨年十一月三十日現在の申込み戸数が八千四十一戸のため、次のとおり継続して申込み受付けを行うことになりました。

継続受付けの申込み期間は、一月七日から一月三十一日までで、融資予定戸数は、第二回より引き続き三万戸を限度とします。この場合の選定方法についても、申込みが融資予定戸数に達しない場合は無抽選とします。

なお、お問い合わせは、住宅金融公庫高松支店住宅相談所(電話〇八七八七二二)まで。

募集

市立大篠女学院生徒募集

大篠女学院では五十二年度の生徒を募集しています。修得科目は洋裁、和裁、あみもの、茶道、華道、料理、手芸等となっております。

入学日は昭和五十二年四月八日(金)から、応募期間は一月十日

市立大篠女学院

不要犬の買い上げ

不要犬の買い上げは、先の日風十七号の豪雨により土砂に埋没したため中止していましたが、その後施設が復旧し、買い上げが今までよりできるようにになりました。

買い上げは、毎月第二月曜日の九時半から十時まで、市役所北側駐車場で行いますので印鑑を持っておいで下さい。

公書環境課

電話

留守番電話設置を

ビジネス・タイムを有効に、夜間、休日、留守中のお客様からの電話にたいに、応答する、留守番電話の設置があります。

また、電話を便利にご利用ください。

南国電報電話局③〇〇〇〇
電気通信共済会(高知) ③4141

大会

同和教育研究発表会

地域ぐるみの同和教育をいかに進めるか、という研究主題のもとに、市内の各保育所・小中学校で同和教育研究発表会が開催されます。

市民のみならずのご参観と、ご批判、ご指導をお待ちしています。

期日/一月十九日(水)
公開保育・授業/岩・南部・あけぼの・前浜保育所、大湊・日章小学校
分科会/中学校/中央公民館
全体会(講演)/市民体育館

部落解放というのは

どんなことでしょうか

部落解放への道標

同和教育シリーズ ①

よく同和教育とか、同和対策とかいうことが使われておりますが、この「同和」ということは行政的な用語で、「同胞一和」の省略といわれております。本来は「被差別部落の問題」(略して、部落問題とか部落差別という)というべきです。

この、部落問題の本質ともいえるべきものを同和対策申では、「日本国民の一部の集団が、経済的にも社会的にも、また文化的にもきわめて低位な状態におかれ、現在でもなおいじめるしく基本的な人権が侵害され、特に近代社会の原理として、何人にも保障されている市民的権利と自由が、同和地区の人々にはきわめて不十分にしか保障されていないという重大な社会問題である」と書かれております。

- 職業選択の自由
- 教育の機会均等を保障される権利
- 居住・移転の自由
- 結婚の自由

部落問題について

さて、私たちの周辺にはいろいろな考え方がありますが、その一つに、

(一)「寝た子を起すな」という考え方があります。部落問題は、そっとしておけば自然に解消されるものではないでしょうか。やかましく言うことによつて、何も知らない子

供たちに差別を教えることになり、かえって差別を広めることになると思いますが……。

このような意見は、昔から現在まで同和地区外でも地区の内部でもよく言われている言葉です。

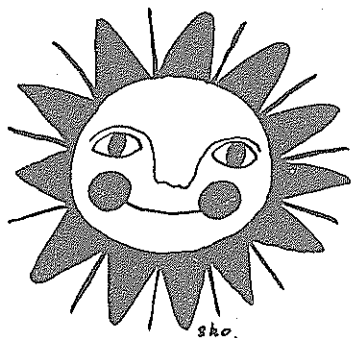
同和地区内の人々とよく語り合つと、この人々も差別がないと心から思っているのではなく、むしろ、つらい昔の差別を思い出さないので傷口にさわって欲しくないという考えであったり、自分自身の劣等感、被差別感の裏返しでこのように言っているのです。また、地区外の人々でこのように言う人は、現代社会の部落差別とは何かということがよくわかつておらず、「部落の人たちを昔の差別的な用語や、手ぶり身ぶりなどで侮辱することが差別だ」と考えている人が多いようですが、このように考えている人たちが部落問題の本質を正しく理解して欲しいと思います。

次に、「小さい子供は何も知らない純真なものだ、何を好き好んで余計なことを教えるのか。このままそっとしておけば、月日のたつうちに自然にこの問題は解決するのだ」と言う意見もよく聞かれます。しかし、本当にそうでしょうか。

小さい子供は純真で確かに何も

知りません。しかし、四十歳、五十歳といった年齢の人で部落問題について何も知らない人は、過去の調査ではほとんどいません。しかしこの知り方が、部落問題を差別的に知らされたため、心の底では根深い偏見や差別観念を植えつけられている人が多いのです。この人々も過去には純真で何も知らなかつた幼少期もあつたはずですが、つまり、現在何も知らない子供たちであっても、長じて差別偏見をもつ大人になるという可能性をもつているということです。

また、部落差別は単に偏見や差別意識といった概念だけの問題でもありません。ましてや、現在の社会における部落差別は前に述べましたように、日本国民に与えられているはずの市民的権利や自由が、同和地区住民には不十分にしか保障されていないということが今日の差別であり、そのことが同和地区の低位性や後進性を生みだしているのですから「同和教育無用論」「同和行政不要論」は、ちよつと病人を病人でないといふ断言し、ついに回復不能に追いやるのと同じで危険このうえない誤りを犯すものであり、客観的には差別をいつまでも残し続ける役割りを果たすものであつて、こういう考え方をそのものが差別であると言わざるを得ないのです。



明けまして
おめでとう
ございます

広報なんこくは、市民と市政を結ぶパイプ役として頑張っています。

町の話やあなたのご意見を広報にお寄せください。

今年もみなさんとともに、より親しまれる広報づくりに励みたいと思いますのでよろしくをお願いします。

広報委員会

- 委員長 山本 尚一 (医師・後免)
- 副委員長 山崎 次 (講師・大埔)
- 委員 藤本 茂樹 (建設業・田村)
- 〃 藤中正雄 (県教委・甘枝)
- 〃 島村 辰彦 (建具業・大埔)
- 〃 浜田 弥芳 (婦人会長・前浜)
- 〃 土居 順一 (青年団長・十市)
- 〃 尾木 亮温 (議会事務局次長・大埔)
- 〃 竹内 富二枝 (稲生保育所保育・稲生)

事務局 (企画財政課広報広聴係)

課長 唐岩 白竜 (白木谷)

課長補佐 兼 広報広聴係長

東村 達夫 (立田)

職員 池 知隆 (篠原)

〃 中沢 孝夫 (里改田)

日	一般・衛生行事
10 (日)	後免・野田・大篠乳児相談・9:00~4:00 市役所3階保健婦室 三和乳児相談・9:00~3:00 三和支所 十市乳児相談・10:00~3:00 十市支所 不要犬の買いあげ・9:30~10:00 市水道局前 不燃物の収集 (物部)
11 (月)	生ワクチン投与 (個人通知者のみ) 1:30~2:00 開野地区公民館 不燃物の収集 (稲生) 文化財講座「白由党と国民党」(市役所)・1:30~
12 (火)	生ワクチン投与 (個人通知者のみ)・1:30~2:30 大篠地区公民館 生ワクチン投与 (個人通知者のみ)・1:30~2:00 三和地区公民館 不燃物の収集 (能間、野田口、城陸、朝日町)
13 (水)	生ワクチン投与 (個人通知者のみ)・1:30~2:00 日章地区公民館 不燃物の収集 (稲吉、西窪、新川、鈴江)
14 (木)	生ワクチン投与 (個人通知者のみ)・1:30~2:00 善ヶ池中学校講堂 不燃物の収集 (山崎、八木、田井、関、竹中、西野々、住吉野、伊達野、南海学園)
15 (金)	愛の献血・10:00~12:00 成人式会場前 (大埔・市民体育館前) 一般のご協力もお願いします 休日在宅医・小栗医院 (十市) 5-8405 不燃物の収集 (宇田、東崎、東部、西部、中部、折年) 成人の日・小正月
16 (土)	休日在宅医・なんごく産婦人科 (後免) 4-2910
17 (日)	不燃物の収集 (野田)
18 (月)	不燃物の収集・後免 (東町、横町、中町、中ノ丁)
19 (火)	瓶岩・久礼田・国府乳児検診 (生後60日~8カ月)・ 1:30~2:00 植野公民館 不燃物の収集・後免 (西町、栄町)
20 (水)	不燃物の収集 (陣山、三島、上末松、下末松、西山、上甘枝、西島、吉市) 人権・行政相談 (社会福祉センター)・10:00~3:00 3-4444 大寒
21 (木)	瓶岩・久礼田・国府乳児検診 (生後9カ月~1年3カ月) 1:30~2:00 植野公民館 稲生・十市離乳食講習会・1:30集合 三和地区公民館 不燃物の収集 (一区~八区、南小竈、北小竈 (折年団地を含む))
22 (金)	不燃物の収集 (瓶岩・上倉) 法律相談 (社会福祉センター)・10:00~12:00 3-4444
23 (土)	休日在宅医・東川整形外科 (大埔) 3-3261
24 (日)	岩・日章乳児相談・9:00~12:00 日章保健婦室 不燃物の収集 (国府、岩村)
25 (月)	後免・野田乳児検診 (生後60日~1年)・1:30~2:00 後免町公民館 不燃物の収集 (笠ノ川、八幡、小蓮、定林寺、滝本、蒲原)
26 (火)	岩成人食講習会・1:30集合 岩地区公民館 不燃物の収集 (中島町、神、山島、吉田、常通寺、江村、小竈)
27 (水)	大篠乳児検診 (生後60日~5カ月)・1:30~2:30 大篠地区公民館 不燃物の収集 (植田、久礼田)
28 (木)	大篠乳児検診 (生後6カ月~1年)・1:30~2:30 不燃物の収集 (植野、領石)
29 (金)	
30 (土)	休日在宅医・吉川診療所 (稲生) 4-3183
31 (日)	
1 (月)	不燃物の収集 (里改田、片山)
2 (火)	前浜乳児相談・9:00~3:00 南部福祉館 不燃物の収集 (浪改田)
3 (水)	不燃物の収集 (前浜、下島、久枝)
4 (木)	稲生乳児相談・10:00~3:00 稲生地区公民館 不燃物の収集 (立田) 立春
5 (金)	不燃物の収集 (田村)
6 (土)	休日在宅医・川村胃腸病院 (立田) 4-2707 (03976) 後免・野田・大篠乳児相談・9:00~4:00 市役所3階保健婦室
7 (日)	三和乳児相談・9:00~3:00 三和支所 十市乳児相談・10:00~3:00 十市支所 不燃物の収集 (十市)
8 (月)	不燃物の収集 (稲生) 文化財講座「土佐の方言」(市役所)・1:30~ こと始め・針供養
9 (火)	不燃物の収集 (能間、野田口、城陸、朝日町)
10 (水)	不燃物の収集 (稲吉、西窪、新川、鈴江)

●市立幼稚園 (瓶岩・白木谷) への入園希望者は一月末日までに各園に申し込みを。対象者は四・五歳児です。